

原田病手記 匿名希望 35才

2013年3月22日

私が原田病を発症したのは2012年の12月でした。

ある朝起きると目が少し見えにくく違和感を感じました。疲れ目かな、とあまり気にせずやり過ごして普段どおり過ごしました。外出時、電信柱や看板を見上げると部分的に欠けて見え、更に夕方になると、遠近感がとりにくく症状は悪化していると感じ、慌てて土曜日でも診てくれる急病診療所を受診しました。もともと視力はかなり悪いのですが、メガネをかけていてもこの時点で私の目は受付用紙に名前を書くことすら困難になっていました。

検査を受け、医師が私に告げた診断は「おそらく原田病です。」でした。聞いたこともないその病名に私は不安を感じ、「治りますか？」と尋ねると、医師は原田病は原因不明の自己免疫疾患で一週間入院してステロイドの大量投与、その後半年間ステロイドの服薬で薬を減らしていけば治る。そしてそれ以外の方法は無い、と。

結婚して3年目、そろそろ子を授かりたいと考えていた矢先の発病でした。

これまで大きな病気などしたことなく、風邪もあまりひかない丈夫な体を取り柄だと思って生きてきただけに自分がとんでもない病気になってしまったのではないかと衝撃を受けました。

月曜日に大きい病院で詳しい検査をしてくださいと紹介状を渡されて帰りました。

まだ断定されたわけではなかったのですが、心のどこかで原田病ではないかも知れないという淡い期待を持ち、主人に付き添ってもらい月曜日に大学病院を受診しました。

検査のたらい回しにあった私の目はどんどん見えなくなり、一人で歩くことも困難でした。

ステロイドは嫌、でも視力が戻らなかったらどうしよう…。

そんな不安をよそに、医師が冷たく告げたのはやはり「原田病です。明日入院して点滴治療を始めましょう。」でした。

ステロイドの大量投与以外に治療方法はなく、もし早急にステロイド治療しなければ視力は戻らないし失明の可能性もあると言われました。

私たちは途方に暮れました。仕方なく入院の申し込み手続きを済ませてその日は家に帰りました。

帰宅してから、何とか他に方法がないか主人が夜通しネットで調べてくれました。たくさんの病院に電話で問い合わせてくれましたが結果は同じでした。ネットで情報を探していると、珍しい難病とされているにもかかわらずたくさんのブログや投稿を見つけました。そしてその多くはステロイド治療を受けた結果、恐ろしいステロイドの副作用や繰り返す再発に悩まされるもので、同じ病にかかった者として、目を覆いたくなるような内容でした。

ステロイドしか方法を見出だせないなか、私にはひとつの希望がありました。松本医院の存在です。

原田病を発症する3ヶ月前の9月、私は松本医院を訪れていました。受診理由は顔に出来た広範囲の黒いシミ。そのシミの始まりは2012年の2月、美容室で髪を染めたとき、ヘアカラー剤にアレルギー反応を起こした時からです。顔まわりの皮膚が痒みを伴い赤くただれたので近くの皮膚科を受診しました。妊娠を希望していたのでステロイドではない塗り薬を処方してもらいました(あとから調べると私の塗っていた薬はプロトピックという免疫抑制剤でした)。一時的には良くなったのですが、その

後赤み痒みはぶり返し、しまいには顔色まで悪くなり、周囲から内蔵が悪いのではないかと指摘されるようになりました。評判の良い皮膚科を教えてもらい2件ほど行きましたがどこも曖昧な返答で30代40代の女性に見られる肝斑というシミだろうと言われ肌を白くするハイドロキノンと言う塗り薬とトランサミン錠とビタミンCを処方され、それを半年服用し続けました。それでも状態は改善されなかったのどこかに良い漢方医はいないか探していると松本医院のHPを見つけ受診していたのです。煎じ薬と漢方の塗り薬をいただいて、2ヶ月ほど毎日飲み続けました。顔色の悪さは改善されて行きましたが色素沈着はなかなか取れずその内忙しくなり思う時間に薬が飲めなくなり、少しの間治療が中途半端になっていました。このような経緯の後、発症したのです。

このとき松本医院でステロイドの恐ろしさを教えてもらっていたので、何とかステロイドは避けたいと言う強い思いがあったのです。また、このとき非常に無知でまさか原田病の治療を引き受けてくださると思っていなかったのが最後の最後まで先生に頼る事を思いつきませんでした。

火曜日の朝、診療時間になってやっと松本先生と電話で話すことが出来ました。大学病院へ入院予定の1時間前の出来事でした。最後の望みを懸けて事情を説明すると、先生はすぐに「来なさい。」と言ってくれました。入院治療をキャンセルして主人と母と3人で松本医院へ急ぎました。

この時の私の目の状態は鏡に映る自分の顔も確認できないほどだったので、診察してくれている見覚えのあるはずの先生の顔もまったく見えませんでした。そんな状態で、失明の不安に襲われていた私に先生は「死なない限り病気は治るし、失明しない限り目も元に戻る」と他の医者からは絶対に聞くことのできない希望にあふれる言葉をくれました。

本当に救われる思いでした。

散々原因不明の病気であると言われてきたのに、原因不明の病気など存在しないと言われたことも驚きで、ただの不運ではなく、自分が病気になった理由を深く考えるきっかけを与えられました。そしてヘルペスが原因であろうと診断され、抗ヘルペス剤と煎じ薬をいただいて帰りました。

薬を飲み始めた翌日からそれまではなかった頭痛とだるさに襲われました。24時間頭が痛くて夜もほとんど眠れず、怖い夢ばかりみて4日間ほぼ寝たきりの状態が続きました。

お風呂の時間だけが唯一癒されました。長風呂好きではなかったのですが、明かりを消して二時間でも三時間でもつかっていました。見えないという事を忘れられる時間でした。家の事と身の回りの世話は母親がしてくれました。三度の食事でも玄米食でバランスを考えて用意してもらい、あんなに規則正しい食生活は随分と久しぶりでした。

5日目の朝、いつもより気分が良かったので主人が散歩に連れ出してくれました。久々に味わう外の空気と太陽の光がとても心地よく、この日は横になることなく一日中起きていました。

一週間後2回目の通院の時、なんと前回全く見えなかった先生の顔が見えるようになっていました。その後症状はめまぐるしく変化して行きました。身体的な症状としては頭痛が和らいでいくと共に難聴、めまい、耳鳴りや全身の倦怠感などがありましたが、暫くすると症状は緩和され、気がつくとなくなっていると言う感じでした。眼の症状は始め、大きく歪んでほとんど見えていなかったのが、次第に網膜の炎症が収まり、歪みが小さくなり見える範囲が広がって行きました。目の中でもヘルペスは次々場所を変えて戦っているようで、様々な見え方としてあらわれました。最初の頃は暗がりでは真っ暗に見えて夜一人で歩けなかったり、反対に室内でもサングラスをしないと眩しさに耐えられなかったり、画質の悪いテレビのように写ったり、視界に常にチラチラした光があったりもしましたが

いずれの症状も次第に緩和されて行きました。

年が明けて、視界の歪みがかなり減ったころ、利き目である右目の近視が強まり視力がかなり落ちてしまいました。手元はよく見えるのに、メガネをかけても1メートルも離れると壁掛け時計の文字盤も読めない程でした。そんな中、友人に足揉み療法を教えてもらい取り組み始めました。痛みに耐え冷や汗をかきながら揉み続けると冷え性の足がポカポカ温まりました。棒が触れただけでも痛かった目のツボは治ると信じて懸命に揉みました。揉み始めて一週間後、突然の嘔吐と頭痛と発熱がありました。一晩寝こむと翌朝不思議とスッキリとした気分でした。

そして2月、視力矯正するしかないとは半ばあきらめていた近視が弱まり、視力が戻ってきました。現在、僅かな飛蚊症があるものの、見え方はほぼ以前の通りに戻りました。そして何よりも首や手首の痛み、寝付きと寝起きの悪さ、便秘などもともとあった不快な症状が全て解消され、これまでになく身も心も快調です。

松本医院で治療できてよかった点は、ただステロイドから逃れられたということだけでなく、何故自分が病気になったのか深く考えさせられ自分自身と向き合うことができたことです。原因不明の病気は無い、と松本先生がおっしゃる通りに、私には原田病を発症する理由がありました。

病気になる前の数年間、私は仕事で体を酷使して来ましたが、それ以上に強いストレスを感じて生活していました。好きで始めた仕事にも関わらず楽しむこと以上に自分を追い込み、プレッシャーを感じ、体のSOSをことごとく無視して知らず知らずのうちに免疫を落としてきました。顔に現れたアレルギー反応もそのサインでした。しかしこの時も肌がいいと信じて免疫を落とすとは知らずにプラセンタを飲み続けたり、皮膚科で処方された免疫抑制剤を半年以上塗り続けたり。期待とほうらはらに皮膚はどんどん黒ずみ、お客様相手の仕事だったので、黒ずんだ顔で接客をこなすことが更にストレスとなり、ストレスの負のスパイラルに陥ってしまいました。肉体的な疲労も限界に達し、8月ついに仕事をやめることにしました。9月松本医院で皮膚症状の漢方治療を開始し12月の発症。まさにストレスが去り、漢方のおかげもあって免疫があがりヘルペスとの戦いが始まったのだと今になって理解出来ます。自分の健康を過信してケアを怠りストレスを感じすぎた上にプラセンタや免疫抑制剤で免疫を落とすと言う追い打ちを懸けての発症でした。その時々には目の前の症状しか見えていませんでしたが、振り返ると全ての出来事はつながっていて、結果としてきちんと現われる、私の体は完璧な仕事をしていていたのだな、と納得出来ます。

原田病を発症する前に運良く松本医院の存在を知っていたことで私は本当に救われました。

もしも大学病院で治療していたら、一時的に症状がよくなったとしても根本的な解決がなされないのではおそらく再発を繰り返し、ステロイド治療による後遺症でさらなるストレスを感じ、心を病んでしまったかもしれません。

自分の心のあり方を見つめることができ、何故病気になったのかを知ることが出来た今、今後、病気にならない為にも免疫を下げない生き方を学ぶことが出来ました。

松本医院での治療において大切な事は、自分の免疫の力を信じる事。そしてそれは、私たちの免疫の力を信じてくれる松本先生を100%信じるということだと思います。病気に不安はつきものです。症状のなかなか良くならない時は何かのせいにしたくなります。私も途中何度も試されていると思うことがありました。加えて松本先生の口はかなり悪いです。勉強してこないと容赦なく怒られます。

不安になってくだらない質問をして逆鱗に触れることもあります。世の中あらゆる情報に溢れすぎていて、何が真実かを見抜く力の無い人が多いのは事実です。私もそうでした。また病人ともすれば前向きな判断がしにくかったり、今まで見聞きしたことと正反対の事を教えてくれる松本先生をのっけから信用出来る人は少ないかもしれません。でも病気になったのは自分自信なのだから、人任せにせず先生と出会ったチャンスを生かして先生の理論を理解すれば、何が真実か必ず理解できると思います。

また保険が効かないので医療費はかかります。でも、長い目で見ると、ここで治療を受けることで病気になるならないのメカニズムの真実を知り、これからの人生へタな医療のお世話にならない事を思えば決して高くないと思います。

私が前向きなことを言えるのは、症状がよくなり完治へ向かっているからかもしれません。でも何かを信じられない気持ちや疑いの心は決してプラスには作用しないと私は学びました。心の異物は自分の力で取り除き、感謝の気持ちを育てれば必ず良い方向に向かうと思います。

私の人生を好転させてくれた松本先生への感謝と、家族をはじめ支えてくれた人達への感謝、そして一人でも多くの患者さんが医原病から開放され免疫の真実を知り、医学会と医療保険制度のあり方が改善されることを願い、私の手記とさせていただきます。最後まで読んでいただきありがとうございます。